

中央小学校だより

平成30年 7月 6日 中央小学校 学校通信



子どもたちの安心できる環境に

大阪の地震で、ブロック塀の下敷きになり、尊い子どもの命が犠牲になりました。各都道府県・市町が二度とこのような事故を起こしてはいけないと、調査を行い、安全基準に満たないブロック塀の撤去を行っています。

中央小の体育館北側にも問題のブロック塀がありさっそく7月5日から撤去・付け替え工事に入りました。また、保護者や地域の皆様には、子どもたちの通学路の安全点検、また、日ごろからの見守り・声掛け、ありがとうございます。子どもたちの通学路は、交通安全面でも、防災面でも、事件に巻き込まれないかという面でも様々な危険が潜んでいると思います。学校も情報をより早くキャッチし、実際に点検をし、子どもたちが通学路を守って安全に登下校をしているかなどについて継続的に指導を行いながら、教育委員会・警察等とも連携を図って行きたいと思っています。保護者や地域の皆様方には引き続きの見守りと、情報の提供をよろしくお願いいたします。

授業は楽しい! ⑥

6年 エコたわしづくり

6年生の家庭科で「クリーン大作戦」という単元があります。この単元では、「掃除に関心を持ち身の回りを快適に整えることができるようになる」をめあてに、「よごれの種類やよごれ方に合ったそうじのしかたについて、自分なりに考えたり、工夫したりできる」こともねらいのひとつです。子どもたちは、たわしはたわしでも「エコたわし」に目をつけ、作ってみようということになりました。アクリルの毛糸を使い、簡単に作るには、指を使ったり、かぎ針で編んだりしますが、かぎ針は一人1本ないし、指にひっかけながら作ったら、途中で置いておけない。そこで、家庭科担当の先生は「エコたわし編み機」を割り箸で開発してしまいました。子どもたちは編み機から手作りです。割り箸と輪ゴムで組み立てます。そして毛糸で編んでいきます。編んでいる間にいろいろな言葉が飛び交います。



「本当にきれいに落ちるのかなあ」「油汚れは洗剤なしで落ちたとしても、たわしに付くから結局たわしを洗わなあかん」「編み終わって仕上げると結構中が詰まっているから、乾くのに時間がかかりそう」「中まで乾かないと、くさくなったりするんちゃう?」

このやり取りには感心しました。作ったら使ってみて、きちんと振り返ることが大切、しかし振り返る前から、予想される課題を口にしていた子どもたち。すごい! この経験で、用途に合ったエコたわしを作るために、できあがりの大きさや形、毛糸の太さなどを工夫してみようとしたり、乾かし方を含めて、エコたわしを清潔に使うためのメンテの方法など、見つけてく

れたりするかもしれません。生活をよりよくするために学ぶ家庭科。増々、好きになりそうですね。

3年 わり算

「34人の子どもを4人ずつのグループに分けると、いくつグループができ、何人あまるでしょうか。さあ先生と同じスピードでノートに書いて・・・書けた人から問題をやってください。」

子どもたちは集中してノートに鉛筆を走らせます。学習に向かう気持ちが満ちています。図を描いて求め、式を立てて解き、答えを書きます。そして確かめ算もします。

「もう図は確認しませんよ。式は?」「 $34 \div 4 = 8$ あまり2」「答えは?」「4グループできて2人あまる」「正解」図は全員描いています。式もばっちり立っていました。

「もう一間やります。34人の子どもを今度は5人ずつに分けます。いくつグループができて何人あまる?」子どもたちはこの手の問題はお手の物です。2回目は図も描かずに、さっさと立式して答えに到達しました。

「こういう問題はちゃっちゃとできるね。それじゃあ忍者が挑戦状を持ってきたので次の問題。」私はわくわくしました。これでこの算数の時間が終わるわけではないのです。

「34人の子どもを4人グループと5人グループとに分けて、合わせて8グループ作ってください。ただし、全員どこかのグループに入ります。」子どもたちがざわつきます。

「先生の言うことわかるけど、式がわからん」「式 難しい」「図を使うぞ」「図ならわかった」「全員入れやなあかんの?」「図も式もわからん」「お手上げ!」さっきはあれほど得意げに問題を解いていた子どもたちとは大違いの反応です。

「困っているグループありますか?」子どもたちはどこがわからないのかを口々に話したり、みんなで頭を抱えたりしています。でも「わからないことをわからない」と言えるクラスです。これが大事なところですよ。

「図は描けた?式は書けた?」先生は話し合いの成果を確認してから、「これはみんなで作らないと・・・お手上げになったら忍者に勝てませんからね」ある子が黒板に図を描きました。その図は四角の中に5個○があるものと4個○があるものと2種類ありました。その図を見ながら子どもたちは自分のノートと見比べじっと考えていました。それぞれの子どもたちのノートの図は2つの○が外に出たままでした。つまり2人余したままだったのです。「全部入れやなあかんのや」そこで気づけた子がいました。そしてさらに、ある子が図の説明をしました。「トランプみたいに分ける。」「4人グループは8個できたけど2人はここにに入れる」ここでも気づけた子がいました。

気づけた時間はばらばらだったけれど、授業後の振り返りには「むずかしかったけど、またやりたい」「○○さんの意見がすごかった。頭を使ったんだな」と、友だちの意見を聞いても、難しかったことや、それでもまだ挑戦してみたいこと、友だちの考えに感心したことなどが書かれていました。

「何グループになりますか?」が簡単にわかり「何グループにしたいです」という逆方向の問いに手こずる。ここをクリアさせるためには、文章問題の文章そのものの理解・イメージ化が不可欠です。いろいろな問題にチャレンジし、柔軟な考え方ができるようにしていきたいです。それにしても、3年生のみんな、あきらめずによく頑張っていましたよ。



